

CUBAPON 結成 20 周年を迎えて

◆CUBAPON 結成 20 周年記念の集いが開催されました。



上: 又市征治・代表委員 (参議院議員)
 下: 在日キューバ大使館エリザベス・バルデス・ミランダ参事官

ご案内しておりましたように、2014年10月4日(土)、埼玉・坂戸市の埼玉県坂戸市文化施設「オルモ」で記念の集いが開催されました。全国各地から会員や協賛の方々50人ほどが参集いただきました。

集いのI部は、鎌田篤則・代表委員の司会で始まり、又市征治・代表委員(参議院議員)、在日キューバ大使館エリザベス・バルデス・ミランダ参事官の来賓挨拶の後、キューバ青年の島日系人協会・宮沢昂会長の「青年の島と日本人について」、稲作支援技術指導者・菊田仁さんの「青年の島での稲作支援現地報告」を受けました。また、この集いで大阪の村田博さんよりキューバ青年の島日系人協会・宮沢昂会長にチェンソーの贈呈も行われました。

II部はホールに移動し、いつも協力頂いているドス・ソネス・デ・コラソネスさんのキューバ音楽を楽しみました。

II部には約100人ほどのご参加をいただきました。

◆名称 CUBAPON 誕生の話

キューバの困窮期(特別期と称される)の1994年にキューバ連帯の旗を掲げ発足したCUBAPONの立ち上げの日はラテン歌手のあい御影さんのライブ会場となっていた店で御影さんを入れた5人で相談しました。正式名称は日本キューバ連帯委員会としましたが、もっと簡略な愛称はないかと相談し、TVディレクターの丸山永恵さんの発案でスペイン語のCUBA(クーバ)とJAPON(ハボン)繋いだ造語として略称をCUBAPON(クバポン)としました。

資料 今は通称名CUBAPON(クバポン)が知られるようになりました。

CUBAPON ニュース	NO1	東京都新宿区山吹町333 辻ビル405 IFCC気付
日本キューバ連帯委員会	1994	TEL 03-3268-6014
	10月	FAX 03-3268-6079

**キューバの人々との友好と親善を目指して、
"CUBAPON" 委員会準備会が発足**

去る、7月30日東京で、キューバに縁のあった方々とご相談して来ました。日本とキューバとの友好組織の準備会のための協議が関係者の方の参集のために行われました。当日は代表委員にお願ひしていました方5人を始め、総勢8人の出席で友好組織の名称や規約、運営等について相談しました。

名称は諸事情で日本キューバ連帯委員会とすることになりましたが、キューバに縁のある方や興味ある方などの幅広い参加を目指し、緩やかなイメージの通称を作りました。

"CUBAPON" (クバポン) は CUBA と JAPON を繋げた造語ですが、何が出来るか、動きながら、相談しながら、名前もなじみやすいものになってくるとは思っています。

代表委員に賛同いただいた方は当時で13人ですが、さらに今後増やしていきたいと思っています。多くの方を推薦紹介していただき、その輪から、いろんな提案、計画の発起がなされキューバへの友好と連帯の手が差し伸べられたらと思っています。

準備会の協議の場で相談した会の担当は当面次のように確認しました。

○事務局長: 君島一宇 (自治労長野・副委員長)

○事務局次長: 鎌田篤則 (IFCC事務局長)

○事務局幹事: 高橋日出二 (東欧文化スポーツ協会代表)

丸山永恵 (TVディレクター)

○代表委員: 又市征治 (参議院議員)

○代表委員: 菊田仁 (稲作支援技術指導者)

○代表委員: 村田博 (チェンソー贈呈者)

○代表委員: 宮沢昂 (島日系人協会会長)

○代表委員: 伊藤元 (団体役員)

○代表委員: 小原勇 (経済情報誌)

○代表委員: 河村宏 (IFLA国際図書館)

○代表委員: 加瀬康成 (千葉・鎌子市議)

○代表委員: 鎌田篤則 (IFCC事務局長)

○代表委員: 君島一宇 (自治労長野・副委員長)

○代表委員: 熊谷秀男 (長野県農林労働書記長)

○代表委員: 下川原弘志 (盛岡市議)

○代表委員: 高橋康博 (川崎市議・キューバ顧問)

○代表委員: 高橋日出二 (建設スポーツ誌)

○代表委員: 山口護 (パナソニック)

○代表委員: 又市征治 (自治労長野・副委員長)

○代表委員: 丸山永恵 (TVディレクター)

正式な発足に向け、幅広く参集賛同をお願いして行きたいと思っておりますので、関係各位のご協力のほどお願い致します。(K)

隔世の感があります。

結成10周年の時も記念の集いを開催しましたが、結成30周年へ向かうには協賛、協力の皆様のご意見に寄りかかれないという思いです。

◆歩みの素描～20周年の集い呼び掛けから

「日本キューバ連帯委員会、通称CUBAPON(クバポン)は、日本とキューバの、芸術、文化、スポーツ、労働等の交流を中心として、両国民の友好と相互理解を含め、キューバへの支援、連帯を目的として」結成されてから、今年で20周年を迎えました。

私たちは1993年12月、第1回キューバ平和友好訪問を行い、翌1994年7月にクバポンとして正式に結成しました。それからほぼ毎年友好訪問団を送り出し、主に共同農場、医療施設、学校などを訪問し、医療器具や資金・物資の寄付を行うとともにCTC、ICAPなどを表敬訪問して、キューバの人たちや友好組織との交流・友好を深めてきました。併せて、キューバ連帯世界会議、世界青年学生祭典、キューバ連帯アジアパシフィック地域会議などに代表団を送り、またCTC代表団を招聘してきました。

2009年2月にはキューバ共和国より「連帯大勲章」が授与されました。この年は、キューバ革命50周年記念の年であり、日本キューバ国交樹立80周年でもありましたので、キューバ・フェス



ドス・ソネス・デ・コラソネスの演奏を楽しむ

ティバル実行委員会に参加し、埼玉県坂戸市文化会館において「キューバ・フェスティバル」を実施しました。また、青年の島への稲作支援を事務局決定し、島の日系人会と連絡、連携を開始しました。そして、翌2010年11月の友好訪問（団長、又市代表委員）の時に日本大使館より「草の根・人間の安全保障無償資金協力」の情報を得て、同時並行的にプロジェクトを立ち上げることになりました。

2011年にはクバボンと現地プロジェクトとの間で調印を行い、その後年に2回の指導訪問を継続してきました。そして、本年4月よりクバボン会員の菊田稲作専門指導員が半年の長期滞在指導を行っています。

◆青年の島・日系人協会の宮澤会長を招聘

20周年と稲作支援プロジェクトの促進のため宮澤さんを日本に招待しました。（詳細は会報27号）

ICAP から届いた 20 周年を祝するメッセージ

ハバナ、2014年9月2日

革命56年

親愛なる君島様、鎌田様、松矢様、そして日本キューバ連帯委員会のメンバーの皆様

クバボン結成20周年のこの機会に大きな喜びをもって一筆申し上げます。キューバ諸国民友好協会の名の下に最も深い感謝と心からのお祝いをメンバーの皆さんに申し上げます。皆さんはキューバと日本の友好関係向上のために最善を尽くしてきました。

クバボンのこれまでの連帯活動を振り返ると、あなた方、そして他大勢の日本の友人やクバボンのメンバーが、キューバ国民と我々の革命のために数々の広範な連帯活動を行ってきたことをとても嬉しく思います。

社会主義陣営の崩壊とアメリカによる封鎖の悪化に端を発するペリオド・エスペリアルと呼ばれたキューバが苦しかった時期にクバボンが結成されたことを我々は決して忘れません。クバボンはアメリカの許し難い政策を精力的に非難してきました。

キューバの現実について継続的に発表してきたことによるポジティブな影響、そして我が国へ頻繁に社会政治団体を派遣してきたこと、メーデーの行進への参加、CTC（キューバ労働者中央組織）との幅広い関係にも感謝しています。

様々な社会部門への貴重な物資ならびに経済的支援、青年の島での米作技術指導、キューバ国内外の様々な連帯イベントへの出席などは、クバボンによって行われた多くの努力を要する活動の一部です。この全ての中でも、とりわけ「5人の英雄」解放に向けての取り組みは、キューバとの国際的な連帯運動と共に我々の国民を救う主要な闘いのひとつであり、特別な注目に値します。

5人のための100人委員会の創設や、5人に対して行われてきた不正を非難する行動の数々においてクバボンが果たした重要な役割に感謝しています。そして、真実と正義のためのきわめて重要なこの闘いにおいて、これからも我々と共に歩むことを勧めます。

親愛なる友人の皆さんへ

私たちが生きるこのますます複雑になっている世界では、クバボンとICAPの代表者たちにこの先も多くの課題が残されています。帝国主義的勢力が何としてもキューバを

いつの日かその国旗の星に加えようと執心を続けているため、皆さんの恒常的な連帯が本当に必要なのです。

我々の団体の間にある連带的、友愛的な申し分ない関係は、友情から模範を作りながら大いに活躍を続ける我々一人一人の姿勢を示しています。日本とキューバの友好団体の先駆者のひとつとして、これからも活躍を続けてください。

クバボン20周年おめでとうございます。

友情を込めて、

キューバ諸国民友好協会

総裁

ケニア・セラノ・プイグ（署名）

【ご案内】

◆2015年秋・友好訪問団予定

11月下旬に、アメリカによる経済封鎖解除後のキューバを見聞します。何が残り、何が変貌するか。アメリカのひとつの時代の終焉ではありますが、キューバもまた、新しい舵取りを強いられるでしょう。祝福と同時に、わたしたちも新しい連帯の道が問われるでしょう。

（4P 関連資料）

世界の政党、政治社会勢力・運動へのメッセージ

唯一1959年1月1日の歴史的キューバ革命勝利に匹敵する大きな喜びをもって、我が国の国民は、16年間米国で不当に投獄されていた5人の反テロ英雄の祖国への帰還とキューバ米両国政府間の国交回復とその正常化のために努力するという決定を祝っています。唯一足りないものは、キューバに対する経済・貿易・金融封鎖の一方的な撤廃です。

米国は最終的にバラク・オバマ大統領自身の言葉で、半世紀以上にわたる敵対・封鎖政策は失敗であり、キューバを孤立させる代わりに、同国の国際的孤立を深めることになったと認めました。

この歴史的勝利は第一に、最高指導者フィデルとラウルの指導のもとでの革命的キューバ国民の長年の闘いによって可能になったものですが、50年以上にもわたり世界の友人から受けてきた連帯的励ましのおかげでもあります。

それ故、私達に寄り添ってくれた全ての政党、政治社会勢力・組織、大衆組織、個人、全てのキューバの友人にたいし、キューバ革命に寄せてくれた信頼に心からの感謝を届けたいと思います。私達は、今日の新たな状況の下で私達が直面する新たな課題にたいしても、引き続き皆さんの支援を得て行けるであろうと確信します。キューバは独立、民族主権、社会主義の理想を守り続けることを確約することができます。

2014年12月18日、ハバナ市

キューバ共産党中央委員会

（4P 関連資料）

CUBAPON は ICAP にメッセージを送りました。

「歴史的な日、ヘラルド、ラモン、アントニオ帰還のニュースが世界中で、そして日本でも流れ、私たちに喜びをもたらしました。16年間、正義のために闘ってきたキューバのすべての皆さんに敬意を表するとともに、この機会に、改めて私たちの連帯の意を表します。

CUBAPON」（2014年12月28日）



CUBA滞在記

自炊編



CUBAPON 会員：村上久美子

9月末から11月半ばまで約2カ月間、ハバナで初の自炊生活を体験しました。



上：カサにて（右から）大家のマルタ、友人のジャニナ、筆者
下：明るいキッチン



滞在先はバダド地区の2LKのアパート型カサで賃貸料は月300CUC。大家のマルタは面倒見が良く、おしゃべり好きな典型的クバナで、年は3つしか変わらないのに「ここでは私があなたのママよ」と言って、自炊の「いろは」から教えてくれました。

最初に教わったのは水道水の蒸留です。キューバの水は硬水で、沸騰させると白いマグネシウムが湧き出すので、沈殿させて濾過しないと飲料水になりません。

近所のお店もマルタが教えてくれました。キューバではCUCとペソの2種類の通貨が使われていますが、店もCUC払いとペソ払いの二種類があり、扱う商品も違います。野菜、果物、豚肉などの農産物はメルカドと呼ばれるペソ払いの店、食用油、米、パスタなど瓶や袋に入った加工品や石鹸などの日用品、輸入品はティエンダと呼ばれるCUC払いの店で売られています。この他、外国人には縁がない場所ですが、ボデガ（配給所）があり、米や豆、油など一定の品目を割り当て分だけ格安で買うことができますが、量が少なくて配給だけでは一月持たないのが実態です。例えば食用油の配給は1人につき月100ccで、足りない分はティエンダで買わなければなりません。値段は日本より高いくらいで、500ccのボトル入りで2・5CUC（約300円）でした。

一方、メルカドで売っている野菜や豚肉も、ペソ払いとは言え安くはありません。概ね日本の半額ほどですが、平均月収480ペソ（約2000円）では本当に大変だと思います。

それでもマルタは言います。「キューバは資源がないでしょう。その上、ブロケオ（経済封鎖）で原料が入って来ないのよ」。

「何でも高く大変、大変」と、ため息をつきながら、それでも経済封鎖下で暮らしを懸命に支えているキューバ人女性の強さを彼女の中に見ることができました。

折しもアメリカとの国交正常化に向けた交渉開始のニュースに接し、不当な経済封鎖が一刻も早く解かれ、キューバ人の暮らしが豊かになることを祈ってやみません。 14年12月19日記

- 「米自給支援プロジェクト報告 vol4」（14年3月発行）発売中
青年の島での「米自給支援プロジェクト」の報告を協賛カンパいただいた方に随時行っています。ご希望の方は「協賛カンパーロ=3,000円」をお願いします。
- 「米自給支援プロジェクト報告 vol5」（15年3月発行予定）
ただいま、2015年度の「米自給支援プロジェクト」協賛カンパを募っています。
- 最新版：「カリブの社会主義 PartXVI」（2014年版）
2014年5月、実施された訪問団の現地レポート。稲作現場や医療現場などキューバの姿を見聞した記録。2014年7月発行（A4版、800円 送料込）



好評頒布中

『キューバ探訪——17年』 細谷久美子：編著

311頁、四六版 定価2100円

アメリカの経済封鎖解除でキューバは変貌するか。変貌してはならないものがこの書にある。CUBAPON 会員：細谷久美子さんの17年間のキューバ見聞録がモンカダ兵營襲撃60年の年=2013年7月26日に上梓された。革命とともに生きるキューバ人の決意、希望、苦悩の息使いを映し出している。それはまた、キューバ連帯を掲げたCUBAPONの1993年以來の活動の足跡ともなっている。

TROPIC-TOUR

アイエフシー

はCUBAPONの関連の手配旅行社です
キューバをあなたに届けます。

◆アイエフシーはIFCC国際友好文化センターの関連旅行社です。“人と人との出会い”を通じた友好・交流のプログラムを演出します。

◆アイエフシーは文化、政治、福祉、環境の分野の視察、研修、調査のプログラムをお手伝い致します。

◆アイエフシーはキューバなど中南米、ベトナム・中国などアジア、ドイツなど西欧、デンマークなど北欧のプランニングを行っております。

東京都知事登録旅行業第3-3757号
〒162-0801

東京都新宿区山吹町333番地 辻ビル405

TEL03-3268-6014 AX03-3268-6079-



(左から) ヘラルド、フェルナンド、アントニオ、レネ、ラモン ※ 太字は今回帰還した3人

「5人の英雄」キューバに戻る！

「5人の反テロの闘い」はマイアミの過激な

反キューバ組織のテロを未然に防ぐための活動に従事し、1998年9月12日、スパイ容疑でFBIに拘束され終身刑を含む不当に重い刑が下されました。

刑期を終えて釈放されたレネ、フェルナンドに続き、2014年12月17日、アメリカとキューバの国交正常化交渉開始に先立って残った3人が釈放され、5人全員がキューバの地に戻りました。

12月17日、ラウル・カストロ国家評議会議長はテレビ放映された演説

でアメリカと国交正常化交渉に入ることを伝え、その中で「フィデルは5人が帰って来ると約束した。その通り、彼らは帰って来た」と、5人全員の帰還を報告しました。

ヘラルド、アントニオ、ラモンは、アメリカの専用機でキューバの地に降り立ち、家族との16年ぶりの再会を果たしました。



12月20日、人民権力全国会議で演説したラウル・カストロ議長は、新しい扉を開いたオバマ大統領に感謝の意を表しながらも、「キューバはアメリカの政治体制の変更を求めたことはない」、「アメリカにもキューバの原則を尊重するよう求める」とし、社会主義の堅持を改めて表明し、議場から大きな拍手が巻き起こりました。



社会主義を守り抜く決意 人民権力会議でラウル・カストロ議長

キューバ議長談話: 「五人」は既にキューバに戻った。

2014年12月17日、ハバナ



同胞諸君、私は、国家評議会・閣僚評議会議長に選出されて以来、アメリカ政府と主権の平等の立場で、我が国の独立と民族自決権を損なうことなく、様々な問題を相互的に協議するために対話を行う用意があることを、多くの機会に繰り返し表明してきた。

これは、我々の長い闘いの道の様々な瞬間にフィデル同志によっても、おけにあるいは個人的に表明された立場であり、我々の原則を一つも放棄することなく、交渉によって対立点を討議し解決しようという提案であった。

英雄的キューバ国民は、大きな危険、攻撃、逆境、犠牲にたいして、我々の独立と社会正義の理想に忠実であり、今後も忠実でありつづけることを示してきた。我々はこの革命の56年、固く団結して、1868年の独立戦争開始の時からそれらの原則を守るために倒れた人達への深い忠誠心を抱いてきた。

今、我々は豊かで持続的な社会主義を建設するために、困難をいとわず、経済モデルの刷新に取り組んでいる。昨日私が行ったバラク・オバマ大統領との電話会談を含めた、ハイレベルの対話の結果、両国の関心であるいくつかの問題の解決のうえで前進することができた。

2001年6月、フィデルが「彼らは帰ってくる」と約束したように、ヘラルド、ラモン、アントニオが今日祖国に着いた。

そのために根気よく闘ってきた彼らの家族と全国民の大きな喜びは、何百という連帯の委員会、グループに広がっている。この16年間彼らの解放を求めて多大な努力をしてくれた各国の政府、議会、組織、機関、個人に広がっている。そのすべてに我々の最も深い感謝と決意を表明したい。

オバマ大統領のこの決断は、我が国国民の尊敬と感謝に値する。

キューバと米国の関係改善を援助してくれたバチカン、とくにフランシスコ・ローマ法王に感謝したい。同様に、両

国のハイレベルの対話の実現のために便宜をはかってくれたカナダ政府にも感謝したい。

我々の方では、米国のために働いていたキューバ系スパイを1人釈放し米国に送還することを決定した。

他方、人道主義的理由から、今日米国人アラン・グロスも米国に帰された。

我々のやり方であり我が国の法律に厳密に基づいてであるが、こちらからの一方的な形で、米国政府が関心を表明していた人物達の釈放も含めて、関係受刑者が刑法上の恩恵を受けた。

同様に、我々は外交関係復活を合意した。これは最も重要な問題が解決したことを意味しない。我が国に巨大な被害を与えている経済・貿易・金融封鎖は終了すべきだ。

封鎖の手段が法律になってしまっているとは言え、米国の大統領は、大統領権限によってその適用を変えることができる。

我々は米国政府にたいして、両国間の環境を改善し、国際法と国連憲章に基づいて関係の正常化に向かって前進するために、相互に手段をとり合うことを提案する。キューバは国連などの多国間機関で協力する用意があることを重ねて表明する。

我々の間には、とくに民族主権、民主主義、人権、対外政策で深い相違があることを認め、それらの問題についても対話をする意志があることを再度表明する。

私は、両国民、家族、両国市民の間の交流、とくに渡航、直接郵便、電話通信に関して、それを阻害あるいは制約している障害を取り除くよう米国政府に要請する。

交流が持続され前進していることは、多くの問題への解決が可能であることを表している。

我々が繰り返し述べてきたように、我々は相違点を持ちながらも文明人として共存する術を学ばなければいけない。これら重要なテーマについては、先に行って再度話すことにする。

ご清聴に感謝する。